

2018年（平成30年度）  
財務専門官 基礎能力試験の出題例

【判断推理】

ある会社のA~Eの5人の職員は、いずれも総務課に在籍したことがあり、平成26,27,28年度の3年間の総務課における在籍状況等について、次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。ただし、職員の異動は年度の初めのみに行われるものとする。また、平成25年度には、A~Eの5人は総務課に在籍していないものとする。

- ・A~Eの在籍期間は、1年、2年、3年のいずれかであった。また、この3年間に総務課から別の課に異動して1年後に再び総務課に異動した職員が1人いた。
- ・Aが総務課から別の課に異動したのと同時にCが総務課に異動してきた。また、Eが総務課から別の課に異動したのと同時にDが総務課に異動してきた。
- ・BとCが同時期に総務課に在籍していたのは1年間のみであった。
- ・3年間、総務課に在籍した職員がいた。
- ・A~Eのうち、男性が3人、女性が2人であった。また、Bは女性であり、D及びEは男性であった。
- ・Eが総務課に在籍していたのは連続した2年間であり、両年度共に女性が2人在籍していた。

- 1.Aは女性である。
- 2.Bが総務課に在籍していたのは2年間であった。
- 3.平成27年度において、Cは総務課に在籍していた。
- 4.平成26年度において、Dは総務課に在籍していなかった。
- 5.Eは、Cと1年間のみ総務課に共に在籍していた。

2018年（平成30年度）  
財務専門官 基礎能力試験の出題例

【数的推理】

$4(m^2+n^2-m-n)+2 \leq 100$  を満たす二つの正の整数  $m$  と  $n$  の組合せは何通りか。ただし、 $m < n$  とする。

- 1.4 通り
- 2.6 通り
- 3.8 通り
- 4.10 通り
- 5.12 通り

2018年（平成30年度）  
財務専門官 基礎能力試験の出題例

【社会（時事）】

我が国の子どもを取り巻く状況に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1.2007~2016年における刑法犯少年の検挙人員は連続して減少しており、この10年間で3分の1以下にまで減少している。また、同期間における少年を被害者とする刑法犯認知件数についても、この10年間で半分以上にまで減少している。一方、主にスマートフォンを利用したコミュニティサイトに起因する犯罪の被害児童数は、2016年にそれまでの過去最多となった。

2.経済協力開発機構(OECD)が公表した72か国・地域の15歳を対象とした学習到達度調査の2012年調査結果によると、我が国の読解力の平均得点は、調査参加国中1位である一方、科学的リテラシーの平均得点は10位以下となった。こうした結果を踏まえ、理数教育の充実や情報活用能力の育成を目指した学習指導要領が2017年より実施されている。

3.2016年における出生数は、2015年に本格施行された「子ども・子育て支援新制度」などの子育て支援策の効果もあり、再び100万人を上回った。一方、出生数から死亡数を引いた自然増減数は、10年前に急速にマイナスに転じたが、高齢者の長寿化が要因となり、近年ではマイナス10万人前後で推移している。

4.2016年の国民生活基礎調査によると、我が国の子どもの相対的貧困率はおよそ25%である。そのため、「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、一定の収入額未満の世帯の高等学校等に通う生徒に対して高等学校等就学支援金を支給する制度が2017年に新設されるなど、教育の支援や子どもの就労支援等、子どもの貧困に関する指標の改善に向けて重点施策が進められている。

5.少子化の一方で、2016年4月1日時点での待機児童数は5万人を上回った。こうした背景の一つとして、雇用者の共働き世帯の数が、男性雇用者と無業の妻から成る世帯の数を初めて上回ったことが挙げられる。そのため、待機児童解消に向けて、2017年度に保育施設で保育に従事する全ての保育士を対象に、月額4万円の給与面での処遇改善が行われた。

2018年(平成30年度)  
財務専門官 基礎能力試験の出題例

【物理】

音や光に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 走行する救急車のサイレンの音は、救急車が近づいてくるときに低く、遠ざかっていくときに高く聞こえる。これは、クーロンの法則によると、音源が近づくところでは、波長が長く、振動数が小さくなり、その結果、音源の出す音よりも低く聞こえるためである。
2. ヤングの実験によって、音が波動であることと、温度の異なる空気の境界ではその両側で音速が異なるために、音波は回折することが示された。このような音波の回折のため、夜間には聞こえない音が、地表付近の空気の温度が上昇する昼間には聞こえることがある。
3. 凸レンズに光軸と平行な光線を当てると、凸レンズの後方の光軸上の1点に光が集まる。この点を凸レンズの焦点という。逆に、焦点から出る光は、凸レンズを通過後、光軸に平行に進む。凸レンズによる実像は向きが物体と逆向きになり、また、凸レンズによる虚像は向きが物体と同じ向きである。
4. 光は、波長によって持っている力学的エネルギーが異なるため、真空状態の空間で白熱電球などから白色光を出すと、スペクトルという虹のような一連の色に分かれる現象が見られ、これを光の干渉という。太陽光の連続スペクトルの中には、y線という多くの暗線が見られる。
5. 地上における光の速さは、2枚の偏光板を回転させることで測定することができ、この結果から、ホイヘンスの原理によって真空中における光の速さが導き出される。一方、音の速さは、鏡と歯車を用いたフィゾーの実験で測定することができる。

2018年(平成30年度)  
財務専門官 基礎能力試験の出題例

【世界史】

18世紀以降のフランスに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. クリミア戦争への参戦によって破産状態に陥っていた国家財政を立て直すため、国王は、免税特権を認められていた貴族たちにも課税しようとした。これに反発した貴族たちは、第一身分の国王、第二身分の貴族、第三身分の平民から成る三部会の招集を要求した。
2. 1789年、軍隊のヴェルサイユ集結の動きに危険を感じた農民が全国で反乱を起し、その影響を受けたパリ市民がバスティーユ牢獄を襲撃した。この事態を沈静化するため、国民議会は封建的特権の廃止を決議し、領主裁判権や賦役、領主地代を無償で廃止した。
3. 国民議会は、ラーファイエットらが起草して、全ての人間の自由・平等、国民主権、私有財産の不可侵などをうたった人権宣言を採択した。また、教会財産の没収、ギルドの廃止などの改革が進められて、立憲君主政の憲法が発布された。
4. ロベスピエールを中心とするジロンド派政権は、ヴェルサイユ体制を維持するため、これの反対派とも話し合いを重ね、協働して民主化を図った。この政権は、権力の掌握を狙うナポレオン=ボナパルトが起こしたテルミドール9日のクーデタによって倒された。
5. ナポレオン=ボナパルトは皇帝に即位し、第一帝政を開始した。彼は、ワーテルローの戦いではネルソンが率いるイギリス軍に勝利したが、トラファルガーの海戦ではプロイセン・ロシア軍に大敗した。

2018年（平成30年度）  
財務専門官 基礎能力試験の出題例

【解答】

判断推理：1

数的推理：3

社会：1

物理：3

世界史：3

複製禁止